

10番 合砂丈司でございます。通告に基づきまして、一般質問を行います。

町の公共交通体系の見直しについてお伺いします。

当町においては、町民バスの運行費補助や二次交通補助、大川地区の公共交通空白地有償運送事業等、高齢者や障がい者などを含め、交通弱者といわれる方々への交通手段の確保や運賃等の支援の充実が図られてきているところであり、中居町長をはじめ職員の皆さんに敬意を表するものであります。

しかしながら、岩泉町の高齢化率は、町全体で44%、一番高い安家地区で60%超と極めて高く、今後、ますます上昇するものと考えられます。

高齢者等の方々にとって町民バスは、通院や日常生活に、なくてはならない極めて重要なものであります。また、利用者によっては、バス停までの距離があり、特に冬期間は、通院や買い物の荷物の運搬などに苦勞しているとも伺っております。

安家地区においては、人口が少ないうえに高齢者が多

く、家が点在し、沢もあり、バス停までの距離があります。冬期間は寒く雪も多い地区です。また、大川地区のような公共交通空白地有償運送事業を地元の団体等で行う場合には、運転手の確保も高齢化により難しい状況にあります。

そこで、高齢者等の移動手段確保策の一つとして、高齢化率が著しく高い地区に対しては、地区の実情を勘案し、家の前から安心して乗り降りができ、地域で暮らしやすい、やさしい公共交通の確保が必要と思います。旅客運送業者等と連携するなどして、デマンド交通による公共交通体系への見直しを図るべきと考えますが、町長の見解を伺います。

10番 合砂 丈司 議員の御質問にお答えします。

町の公共交通体系の見直しについてですが、人口減少と高齢化により利用者は減少していく状況下におきまして、公共交通体系の見直しは、町の現状からも検討が必要と考えております。

公共交通機関は、町民バスも含め幹線道路を運行しておりますことから、幹線道路から離れた場所の町民の皆様、高齢者にとりましては不便な状況と認識しております。

ただ、それぞれの家の前までバス等が乗り入れられるかどうかは物理的、時間的及び費用的にも課題がありますが、大川地区の公共交通空白地有償運送事業や、県内におけるICTを活用した先進地事例等も参考としながら、議員御

案内の二次交通におけるデマンド交通も選択肢の一つとして、安家地区における効率的な運行と高齢化にも対応できるよう調査研究してまいりたいと考えております。

今後、町民バスの運行状況の現状分析及び利用者の実態等の調査などが必要と考えておりますので、地域の実状にあった交通体系となるよう対応してまいりますので御理解願います。  
以上で答弁を終わります。